

美術館見てある記の始まり

先生について習う、スケッチをする、模写をするなど、絵のならい方には色々あります。私は、絵の先生(著名な染色画家で故人)から、「順大さん、私は職人です。私の絵をそのまま倣うよりも、大家の作品を模写しなさい。描いたら、持ってきなさい。見てあげるよって」とか、「できるだけ仰山の本物を見て、目を肥やす方がいい」など貴重なアドバイスを戴きました。そのアドバイスに従って、今も美術館を巡り、「本物さがしの旅」を続けています。

お気に入りの美術館！

一番好きなのは、八ヶ岳の近くの「清春白樺美術館」です。15年来通っています。手で触れるほどの距離で素晴らしい作品に接することが出来ます。額にガラスに入っていないのでタッチがそのまま見えます。大好きなルオーの作品が一杯あるのもお気に入りの理由のひとつ。

東京で、好きな美術館は「国立西洋美術館の松方コレクション」です。是非行ってみたいのが出光美術館。仙崖の「」とルオーが沢山収蔵されている。

奥多摩の玉堂美術館はとにかく景色がいい。美術館の周りには、玉堂の絵そのままの景色があるのが嬉しい。玉堂の絵には本物の景色に負けないところに響くものがあります。

地元では、「滋賀県立美術館」です。勿論、小倉遊亀さんが目玉。岸竹堂・野村文挙の近江八景が見物。山元春挙作品の収蔵も豊富。美術館の上の丘に登ると琵琶湖が一望できます。

美術館の楽しみ方！

私は、常設展を見るのが好きです。収蔵品には美術館のアイデンティが感じられます。常設のお気に入り作品を繰り返し見ることが私の楽しみ方です。繰り返し見ても、見るたびに異なる感動が得られるのが、不思議です。また、知らない作家や作品との衝撃的な出逢いがあるのが美術館巡りのひとつの楽しみです。

絵の勉強には、「本物を見る」これに勝る練習はないと思います。とくに、模写をしたことがある作品の「本物」をみるときは、ことばにはならない発見や感動があります。「なるほど」とか、「やっぱり」とか推理小説を読んでいて、トリックがわかったときのような感動を覚えます。

美術館見てある記では、「いろいろな発見と出逢い」をご紹介しますと思います。